

和歌山市まちなか再生会議 とりまとめ骨子

和歌山市まちなか再生会議

- ・ 21世紀は、大きな変化。これまでの延長上でない対応が求められる。
- ・ 更に財政状況厳しい中、財政に頼りすぎない事業、制度・仕組み等が求められる。
民間活力の活用、民間の知恵と力と資金が必要。
- ・ まちのちから塾のワークショップを設定、提案を受ける。
- ・ まちのちから塾の提案を基に議論し、再生会議として、実現の方向・方策を盛り込んで「2030まちなか再生」をとりまとめ提案。
- ・ 5案の概要の紹介。前回の総括表をベースに。
- ・ ハードとソフトの両方が必要。
特に、コンパクト化、まちなか居住、医・職・住、アメニティーはキーワード。
- ・ オンリーワンをめざし、歴史・文化・環境等地域資源の活用が肝要。
- ・ また、「つくる」から「保全」へが重要。
- ・ 「人」； 多様な担い手、特に女性、若者の感性・活用が閉塞感を突破するに肝要。
従来型とプチ型・小さいものの積み重ねのため。
- ・ 「仕組み」； 官民連携、大道具と小道具の連携が肝要。市役所のプロジェクト組織、信頼の絆のため出来るだけ長期に配属を。TMOは必要、まちのちから塾の継続的なサポートを。
- ・ 「お金」； PPPが重要。BID、TIF、レベニュー債等を参考にプロジェクトに応じた資金を。エンジェル資金的なものを含めて民間資金の活用。
- ・ 「ストーリー」； ハードとソフト含め相互に関連する事業・地域等を関連付け、一つのストーリーとしてまとめ、展開していくことが肝要。市の財政的な制約等を総合的に勘案し、優先順位を付け取り組むべき。出来れば総合的なキャッチフレーズを。
- ・ 「プロセス」； それぞれの事業の効果、インパクトを事前に調査することが場合によって必要。フィージビリティ調査、意向・ニーズ調査、社会実験の実施等。
- ・ 「情報発信」； ICTの活用等による情報発信・提供を。故郷の地理・歴史読本を。シンポジウム等で掘り下げつつ情報の発信・浸透を。

以上